

はじめに

1999年に文化庁という国の役所から現在の大学（工学院大学）に籍を移した時、3年生後期の授業で「保存修復学」という課目を担当してほしいという依頼があった。その頃には、大学の授業で歴史的建造物を扱うのは、建築の歴史の授業のみで、まして保存修復となると、専門課程で教えることはほとんどなかった。もしかすると、大学院まで含めても今でもその状況は変わっていないかもしれない。

文化庁では、専門の技術者や行政の担当者を育成するための講習を行っていたので、それを参考にしながらとりあえず授業を組み立ててみた。その後、海外に出張する機会があり、海外の専門機関が行っている講習や教科書の類をみることができた。そうこうしている間に、いくつもの修復の事例に関わり、経験を積むこともできた。それらの積み重ねが、本書の内容に生かされている。

10年ぐらい前に、共立出版から、造形ライブラリーシリーズの1冊として、歴史的建造物の保存修復に関するものを執筆してほしいという有難いお話をいただいた。すぐに快諾したのだが、その直後に学内の要職（主任教授→常務理事→理事長）に就いてしまい、完成が随分と遅れてしまった。

依頼された当初から、歴史的建造物の保存修復を特殊なものではなく、一般的な既存建造物の改修の延長線上として書きたいと思っていた。原稿の完成が遅れるうちに、社会では耐震改修や空き家問題が注目されたり、学生がリノベーションを卒業設計のテーマに選ぶなど、既存建造物の改修が少し身近になりつつある。おかげで、本書に興味をもってくれる人が企画当時より増えているのではないかと思う。

授業の教科書で使えるほど立派な出来栄とはいえないかもしれないが、建築に興味を持つ人に、少しでも多く本書を手にしてもらえれば幸いである。

後藤 治